

事務事業評価シート(多可町教育委員会)

1 事務事業の概要 < Plan >		担当課		課長名	記入者	
		学校教育課		松本寿朗	伊藤聡	
事務事業名		新規・継続	事業開始年度	完了予定年度		
児童・生徒の安全・安心対策事業		新規	年度	年度		
		継続	H19以前	未定		
事務事業の体系						
計画 掲載	多可町総合計画	(章) 2 笑顔でつむ、あったかいまち	(節) 1 のびのび育とう、育てよう			
	個別計画	確かな学力				
	(基本計画) 学校教育の充実					
根拠法令・条例・要綱等		事業区分 (該当する区分に「○」)				
		ソフト事業		施設の維持管理		
		義務的事業		内部管理事務		
事務事業の具体的内容		建設・整備事業		計画などの策定		
学校園施設整備計画書により、安全・安心に関わる施設設備の整備を実施する。		補助金の支給		有 ○ 無		
		委託	全部委託		○ 一部委託	
			委託なし(全部直営)			

2 事務事業の目的 < Plan >		
対象 (働きかける相手・誰が・もの)	受益者 (誰を・何を)	意図 (どういう状態にしたいのか)
多可町内の学校園の全施設	園児、児童、生徒、教職員	安全で快適な施設の整備

3 事務事業にかかる予算細目 < Plan >				会計名				一般				会計							
細目名		小学校施設整備事業				細目名		中学校施設整備事業				細目名							
予算	款	項	目	節	予算	款	項	目	節	予算	款	項	目	節	予算	款	項	目	節
コード	10	2	1	15	コード	10	3	1	15	コード					コード				

4 事務事業実施にかかるコスト < Do >						
事務事業・人員		単位	19年度 決算	20年度 見込	21年度 計画	備考 (全体事業費など)
総コスト		千円	10,736	12,180	3,910	
コスト の内訳	直接事業費		10,736	12,180	3,910	
	所属内間接費					
財源 内訳	投入人員	人/年	0.20	0.20	0.20	
	正職員 嘱託員					
財源 内訳	国・県支出金	千円				
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源		10,736	12,180	3,910	

5 事務事業の手段 < Plan > と活動指標 < Do >							
事務事業を構成する業務		手段 (事務事業整理シートより)	活動指標 (手段の数値化)	単位	19年度 実績	20年度 実績	21年度 目標
1	実施設計業務	整備計画により各学校の改修内容を調整しながら実施設計書を作成する。それにより、工事を実施する。	行政、学校との調整会議	回	3	3	3
2	工事実施・工事監理		工程会議の実施回数	回	3	3	3
3							
4							
5							

(ソフト事業)

6 事務事業の実績 < Do >		事務事業名 [児童・生徒の安全・安心対策事業]			
成果指標(意図の数値化)	単位	19年度実績	20年度実績	21 年度目標	備 考 (成果指標の考え方・計算方法)
バリアフリー化の推進及び経年劣化・老朽化による施設等の修繕・改修	%	42.8	42.8	46.4	中町中、加美中、杉小、杉幼、中町幼、八千代幼の6校園はバリアフリー化完了施設とカウントする。 平成21年度は八千代中学校南校舎の改修は2分の1バリアフリー化達成として算定。
		6/14	6/14	6.5/14	

7 事務事業の事後評価 < Check >				(ソフト事業)				担当の把握している課題
チェック項目				該当項目に「○」				
必要性	需要への 対応性	住民ニーズは	○ 高い	高くない		把握なし		
		緊急性は	○ 高い	高くない				
		利用者・対象者数は	増加	○ 減少		横ばい		
		他市町と比較して対象者に見直しの余地は	○ ない	ある		把握なし		
	町の関与 の必要性	民間の事業(サービス)との競合は	○ ない	ある				
国や県の事業(サービス)との重複は		○ ない	ある					
妥当性	サービス 水準の 妥当性	事業開始時から社会環境の変化は	○ ない	ある				
		環境変化によるサービス水準の見直しの余地は	○ ない	ある				
		他市町と比較してサービス水準の見直しの余地は	○ ない	ある		把握なし		
	連携の 可能性	他課で類似の事業は	○ ない	ある				
		他の事業と統合できる可能性は	○ ない	ある		あるが困難		
		民間や他の行政機関と連携できる可能性は	○ ない	ある		あるが困難		
	市民団体・ボランティアなどと協働できる余地は	○ ない	ある	○ あるが困難				
効率性	手段・ プロセス の効率性	事務事業を構成する業務に見直しの余地は	○ ない	ある				
		コスト削減の観点から実施方法を見直す余地は	○ ない	ある				
		サービス向上の観点から実施方法を見直す余地は		ない	○ ある			
		受益者負担を見直す余地は	○ ない	ある				
有効性	目標の 達成度	成果指標が明らかで	○ ある	ない				
		前年より成果が上がって		いる	いない	○ 横ばい		
	持続の 可能性	継続することによる効果は	○ 高い	高くない				
		世代間負担の公平性、社会的平等性が保たれて	○ いる	いない		測定困難		
		事業の休・廃止による住民への影響は	○ 大きい	大きくない				
市場化の 可能性		既に全部委託済		更なる委託化が可能である		委託化の余地があり	○ 委託化は不可能	
		市場化テストの導入について検討する余地がある			市場化テストの導入を検討する余地はない			
改善の可能性			1.改善の余地はない			○	2.改善の余地がややある	
			3.改善の余地が多い				4.抜本的な見直しが必要	

8 改善提案と今後の改善の方向性 < Action >					
職場からの意見		今後の具体的な取り組み			
(施策を取り巻く環境) 経年劣化、老朽化が進んでいる施設が増えてきている。 安全確保の面からも早急に改修することが必要である。		(課長としてこの事業をどのようにしていきたいか) 一人ひとりの園児・児童・生徒の教育の効果を高めるためには、学校生活の充実度・快適度を高めることが重要であり、工夫や改善をいれながら、計画的に実施していく必要がある。			
(課題の解決についての提案など) 基本的には耐震、大規模改造工事と合わせて実施する方向で計画しているが、整備の緊急性を考慮しながら安全・安心対策として柔軟に計画を立てる必要がある。		自己評価		4 (目標以上に達成されている)	
今後の方向性	○ 1. 重点的に継続	2. 現状のまま継続	3. 内容を見直ししながら継続	4. 縮小を検討	
	5. 統合・連携を検討	6. 休止・廃止を検討	7. 終了・完了		